

(参考様式)

伊賀地区 元気な地域づくり計画 改善計画

平成23年6月27日作成

計画主体名	都道府県名	市町村名	地区名	計画期間	実施した施策の概要	
					実施期間	事業内容(メニュー)
伊賀市	三重県	伊賀市	伊賀地区	平成18年度～ 平成22年度	農業生産基盤の整備	事業量 用水施設 L=0.45km

1 元気な地域づくり計画の目標

テーマ	誰でも経営できる優良農地造り、農地の多面的機能の再生活用、農業を媒介とした都市と農村との交流づくり
目標1	農業用用水施設の機能確保
目標2	農業経営における生産性の向上と維持管理費の節減
目標	：
上記目標に対する達成状況	
目標1	：未達成
目標2	：未達成
目標	：

目標が達成がされなかった要因

請負契約の解除に伴い、平成22年度内完成が不能となり事業効果が達成できなくなった。

目標達成に向けた方策

目標達成年度	23年度
--------	------

※ 目標達成年度までの改善に向けての体制整備や総体的な取組方策を記載(全体計画及び年度別計画)

市単独事業により事業効果が達成できるように対応する。

全体計画

2 目標を定量化する指標

成果指標	計画策定時			計画満了時			達成率 (B/A)	指標が達成がされなかった要因
	成果 目標 (A)	基準値	目標値	時 果 成 成 (B)	実績値	算定根拠		
必須	農業用水施設の機能確保 (ha)	0	35.8	22	0	農業用水施設の整備により 用水改良された農地面積	0	請負契約の解除に伴い、平成22年 度内完成が不能となり事業効果が 達成できなくなった。
選択	遊休農地なしの現状維持(ha)	0	0	22	-	愛田地区の遊休農地面積	-	請負契約の解除に伴い、平成22年 度内完成が不能となり事業効果が 達成できなくなった。
	維持管理費の節減	0.7	1.0	22	-	維持管理費の節減をアンケート 調査により検証	-	請負契約の解除に伴い、平成22年 度内完成が不能となり事業効果が 達成できなくなった。

成果指標：計画を策定した時点での成果指標（目標増減（増減率等））

基準値：計画を策定した時点で基準とした値

目標値：計画を策定した時点で目標とした値

算定根拠：出来るだけ詳細に記載の上、参考としてバック資料を添付

達成率：計画を策定した時点での成果と比較した値(下2桁)

指標達成に向けた方策

指標達成年度	23年度
全体計画	<p>※ 達成できなかった指標毎に指標達成年度までの改善に向けての体制整備と総体的な取組方策を記載（全体計画及び年度別計画）</p> <p>市単独事業により事業効果が達成できるように対応する。</p>

3 目標・指標の達成に向けた方策の各年度実績（改善計画策定した翌年度以降、目標・指標達成予定年度まで毎年度作成）
 (1) 元気な地域づくり計画の目標

本年度実施予定方策	用水施設 L=0.45km
本年度実績及び成果	用水施設 L=0.45km完成見込み
所 (達成見込み等)	見 市単独事業により当初事業効果が達成する見込み。

(2) 目標を定量化する指標

本年度実施予定方策	用水施設 L=0.45km
本年度実績及び成果	
所 (達成見込み等)	見

(参考様式)

伊賀地区 元気な地域づくり計画 改善計画

平成23年6月27日作成

計画主体名	都道府県名	市町村名	地区名	計画期間	実施した施策の概要	
					実施期間	事業内容(メニュー)
伊賀市	三重県	伊賀市	伊賀地区 (清蓮寺地区)	H18~H22	H18~H19	市民農園整備及び付帯施設整備 事業量 農園整備:1.5ha 付帯施設:12棟 備品:1式

1 元気な地域づくり計画の目標

テーマ 農業を媒介とした都市と農村との交流づくり

目標4:市民農園を活用したグリーン・ツーリズム交流事業の展開

上記目標に対する達成状況

目標4:伊賀市ふれあい農園、ならびにモクモク活きがい農園を中心とした農作業体験、農業祭り等のイベントを開催し、都市と農村、消費者と農業者の交流機会の増加に繋がった。

目標が達成がされなかった要因

目標達成に向けた方策

目標達成年度	年度
全体計画	※目標達成年度までの改善に向けての体制整備や総体的な取組方策を記載(全体計画及び年度別計画)

2 目標を定量化する指標

成果指標	計画策定時			計画満了時			達成率 (B/A)	指標が達成がされなかった要因	
	成果 目標 (A)	基準値	目標値	達成 率	実績値	満了時 達成 (B)			算定根拠
必須	都市農山漁村交流施設等 における滞在者数の増加 率	237.9% 345人	100% 145人	237.9% 345人	21	128.3% 186人	128.3% 186人	伊賀市ふれあい農園、な らびにモクモク活きがい 農園と利用契約を締結し た人数(年間)	事業の方向性や提供するサービ スの内容については大きな問題はな いと考えているが、料金に見合う だけの魅力を伝えきれず、情報発 信量の不足が要因と考える。
選	農村体験イベント実施	6回	2回	6回	21	10回	167%	農作業体験、農業祭り等 のイベント実施回数	
択									

成果目標：計画を策定した時点での成果指標（目標増減(増減率等)）

基準値：計画を策定した時点で基準とした値

目標値：計画を策定した時点で目標とした値

算定根拠：出来るだけ詳細に記載の上、参考としてバック資料を添付

達成率：計画を策定した時点での成果と比較した値(下2桁)

指標達成に向けた方策

指標達成年度	23	年度
--------	----	----

※ 達成できなかった指標毎に指標達成年度までの改善に向けての体制整備や総体的な取組方策を記載（全体計画及び年度別計画）
 指標：都市農山漁村交流施設等における滞在者数の増加率
 以下の対策を実施する。

- ① マスコミを活用した情報発信を行い、農学舎をよりPRする。
- ② 提示物やイベント等を通じて、ファーム（農業公園）での露出を増やす。
- ③ 日帰りで農作業＋自然体験＋お食事を体験してもらおうプログラムを実施して、農学舎の魅力を実験してもらおう。
- ④ 料金体系を見直し退会者を減少させる。

3 目標・指標の達成に向けた方策の各年度実績（改善計画策定した翌年度以降、目標・指標達成予定年度まで毎年度作成）
 (1) 元気な地域づくり計画の目標

本年度実施予定方策	
本年度実績及び成果	
見所 (達成見込み等)	

(2) 目標を定量化する指標

本年度実施予定方策	現在の利用者は関西の大都市圏が6割を占め圧倒的に多いことから、関西圏ではTV、雑誌、新聞等のマスコミを中心に農学舎の情報により多く発信する。また、3割を占める県内利用者に対しては掲示物やイベント時の農学舎ブースの設置などで農学舎の露出を高める。さらに、農学舎の空き区画を利用して畑仕事を体験してもらい、農学舎の魅力を知ってもらうことで契約者の増加に繋げたい。料金体系を見直すことで、現在の契約者に対して継続のためのインセンティブを感じてもらい、退会者を減少させる。
本年度実績及び成果	
見所 (達成見込み等)	